

## 第35期第7回青森県社会教育委員の会議 会議概要

日時	令和4年7月25日（月） 13:30～15:10
場所	青森県庁東棟5階 中会議室
出席者	<p>《 委員 》敬称略7名  越戸 順子 吉川 康久 永澤 正己 工藤 貴子  深作 拓郎 松浦 淳 小笠原 秀樹</p> <p>《 事務局 》9名  渡部 泰雄（生涯学習課長） 北風 州康（学校地域連携推進監・課長代理）  工藤 奈保子（生涯学習課 企画振興グループ 総括主幹）  工藤 健夫（生涯学習課 地域連携推進グループ 主任社会教育主事） 他5名</p>
内容	1 開 会 2 案 件 （1）重点審議事項2に係る最終答申案について （2）その他 3 閉 会
配付資料	次第・青森県社会教育委員名簿・座席図 〈資料〉 1－① 重点審議事項2に係る最終答申案 構成案 ② 構成修正の新旧対応表 2－① 重点審議事項2に係る最終答申案 ② 重点審議事項2に係る最終答申案（見え消し） 3 第2章に関する調査結果 4 第2章に関する実地調査 5 第15期青森県生涯学習審議会・第35期青森県社会教育委員の会議スケジュール  《参考資料》 1 第1～6回会議における意見の整理 2 第35期第6回青森県社会教育委員の会議 会議概要 3 諮問書 4 実地調査の結果

## 1 開 会

(内容省略)

## 2 案 件

**議長** 本日も忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。今回で最後の会議となるが、答申案の最終的な確認のため、本日もまた皆さんからぜひ活発な御意見をお願いしたい。それでは次第に従って、重点審議事項2に係る最終答申案について、事務局から説明していただきたい。

(事務局から説明)

**議長** それでは、委員の皆さんから御意見をいただきたい。

**委員** 資料3について、2種類の調査から図表が抜粋されているが、調査の実施時期や対象についても記載できると調査の概要が正確に伝わると思う。

**議長** 私からも意見を述べさせていただく。あおもり家庭教育アドバイザーの派遣については、令和3年度までは減少傾向だが、今年度に入ってから派遣依頼が数件入っているという話を聞いているので、最近の状況を教えていただきたい。

**事務局** 新たに作成したチラシを活用した周知活動や市町村の活用に関する運用面での工夫等を行ったこともあり、今年度はすでに依頼が5～6件あり、依頼が0件の年もあったコロナ禍での状況と比べると改善傾向にあると感じている。

**議長** あおもり家庭教育アドバイザーの派遣については改善傾向が見られることは間違いないので、今年度に入ってから動向についても記載を検討いただきたい。

**議長** もう一点気になることとしては、資料4の第2章に係る実地調査について、その中では各団体の代表の記載があるが、今後、代表が代わることも十分に考えられるので、この項目の記載の是非について委員の皆さんの御意見を伺いたい。

**委員** 実地調査を行った当時の代表であることを記載できるとよいのではないかと個人的には、調査を行った団体を紹介するページに代表の名前が記載されている方が自然だと思う。ただ、第1章の内容とも関連することなので、答申全体の整合性が取れるように注意する必要がある。

**事務局** 第1章との整合性を取りながら、調査を行った時点での代表であることを、実地調査に関する部分の1ページ目に記載することとする。

**委員** 「すてっぷ」及び「つがる絆プロジェクト」の実地調査に参加したが、その際、両団体とも学校との連携において苦勞しているとの話を伺った記憶がある。「すてっぷ」にはそのことが明確に記載されているので、「つがる絆プロジェクト」についても、そのことを明確に記載することを検討してほしい。

**議長** 課題について記載する欄があるので、そこに明確に記載できるとよい。

**事務局** 資料3で見ていただいた図表についてだが、中にはグラフの色合いが似通っていて区別がつきにくいものや、示すべき数値の幅が適切でないものもあるので、適宜変更を加えたいと考えているがいかがか。

**議長** 調査結果の図表については、コンパクトにまとめた結果、わかりにくくなっている箇所もあるので、見やすくなるように変更をお願いします。

**議長** 最終答申案の柱立て3(1)②ウ「企業による取組の推進」について、その中では、具体的な経営上のメリットを示すことで中小企業の取組推進につながる内容が追加されているが、その内容についてはいかがか。

**委員** 具体的に国の制度を取り上げて、中小企業に対する経営上の利点をわかりやすくまとめているので、適切な内容になっていると思う。

**委員** 最終答申案全体を通して、一つ一つの文言についても十分に推敲されていることが伝わり、図表等の資料もわかりやすくコンパクトにまとまっている。ここまでの話以外での修正事項は特になく考える。

**議長** 誤字脱字を含めて、修正する箇所が他に残っていれば、事務局に伝えていただきたい。

(休憩)

**議長** 続いて、案件(2)その他に入る。会議の冒頭でお伝えしたように、本日で第35期青森県社会教育委員の会議は最後となる。そこで、これまで2年間の活動を振り返って、各委員から簡単に感想を述べていただきたい。

**委員** あおもり家庭教育アドバイザーとして活動していたことから、青森県社会教育委員を務めることとなったが、多様な分野のエキスパートの方々と一緒に活動させていただき、大変勉強になった2年間だった。活動を通じて、現在、すでにいろいろな子育て支援が行われているが、子育てをする上で大きな軸となるようなことを親に伝えたいということ強く感じており、その軸の一つとしては、親学プログラムが重要な役割を持っていると考えている。これからも、あおもり家庭教育アドバイザーとして、親学プログラム、さらには家庭教育10か条について、その内容をしっかりと伝えていく活動を地道に継続していきたい。一方で、学校の先生方には、それらの内容が十分に伝わっていないと感じることがあるので、学校への周知活動についてももしっかり取り組んでいきたい。コロナ禍もあり、思うように活動できず、もどかしさを感じることもあるが、少しでも学んだことを実践できるよう頑張っていきたい。

**委員** これまで、主にNPO等の地域活動について、具体的には活動計画や定款の作成、役所への申請の仕方等を含め、長く支援に携わってきた。今回のテーマである家庭教育支援は専門分野ではないが、実地調査では団体の立ち上げに関わったところもあり、現在の活動状況や達成できていることなどを知ることができたのは、大変貴重な機会となった。最近の動向としては、SDGsとの関連で、「誰一人として取り残さない」包摂的

な社会の実現のため、自分から支援の場にアクセスできない人たちに対して、どのように支援の手を差し伸べるのが課題だと感じている。地域で活動している多様な団体の活動を支えるため、これからもその関わり方について考え続けていきたい。2年間本当にありがとうございました。

**委員** 本業では大学の教員として保育士の養成に携わっており、それ以外では、NPOでの相談業務や障害者が参加するサッカークラブの支援、国際交流に関する取組等に携わっている。さらにプライベートでは高校生と小学生の父親であり、そういった複数の立場を踏まえて、会議では意見を述べさせていただいた。実地調査では、各団体が悩みや不安を抱える家庭の多様なニーズへの対応で非常に苦労している状況を見聞きし、答申として提言をまとめることの意義を強く感じている。また、個人的には、一人の実践者として、これまで行ってきた活動を次の世代にどのように引き継ぐかということ課題としている。「ついんくる」の実地調査では、以前から親交のあった利用者から、複数の子育て支援団体とつながりながら自身の活動の幅を広げているといった話を聞き、多少なりとも自分の活動がプラスの影響を与えていることの一部を知ることができた。今後ともそういった活動者たちが息切れしないようにサポートしていきたい。話は変わるが、自分の子どもについてお話しさせていただくと、小中学校の頃は悩みごとが多い時期もあったようだが、現在は「レスタ」という学生団体に参加して非常に楽しそうに活動している。そのような活動が、青森県での子育てにプラスの影響を与えることになり、生涯学習・社会教育の環境づくりにも欠かせないと考えている。これからも活動のバトンを次の世代につなげていくことを念頭に置きながら、実践者として関わっていきたい。2年間本当にありがとうございました。

**委員** 大変お世話になりました。2年間でいろいろな学びをさせていただいたと感じている。前半の話の中で、団体によっては学校とうまく連携ができていないとの話が出ていたが、かつては学校現場に身を置いていたこともあるので、学校の現状について多少補足したいと思う。中教審の答申で述べられている「社会に開かれた教育課程」の観点からも、学校が地域と連携して様々な活動を行っていくことは大変重要なことだが、学校がそれを実践することが難しい現状についても考える必要がある。最近のテレビや新聞などの報道では、教員の多忙さについて指摘されることがしばしばあるが、学校にゆとりがなく、地域との連携まで手が回らないというのが現状だと感じている。私が教員になって間もない頃は、家庭教育学級等の機会を通じて、親と意見交換する場がそれなりにあったが、現在ではそういった機会はほとんどなくなっており、学校にゆとりがなくなってきたと痛切に感じている。また、私が居住している町の教育委員会では、キャリア教育を軸とした小中学校の連携を進めているが、それ以前は、小中学校間での意見交換や情報共有があまり行われていなかった。そういったことから、子どもたちの育ちに関して、地域での子育てのあり方や学校と地域との連携・協働の進め方等について、語り合えるような場やシステムがつくられることを期待している。2年間ありがとうございました。

**委員** 今回のテーマである家庭教育支援は、青森県の将来に直結するような重要なテーマであり、そして非常に難しい問題だと改めて感じている。これまでの話にもあったが、学校現場や多様な学習の場において、いろいろな規制が多くなったと感じていて、以前は当たり前に行っていたことができなくなっていることも多く、そういったことをいかにフォローするかが重要である。そのためには、まずは現状を多くの家庭に理解してもらうことが大事で、さらには、主体的に支援に関わる家庭を増やし、これ以上の格差が広

がらないようにする必要がある。また、小学校のキャリア教育においては、かなり明確な将来の目標を決めさせることもあるようだが、小学校の時点では限られた経験しかないため、重要なのはその後の人生において、それぞれの環境の中でその人自身しかできない経験を積み重ねていくことである。そういった過程の先に、その人ならではの将来像が描かれていくのではないか。これから先の社会では、一つの職業を定年退職するまで続けていくことはほとんどなく、途中で方向転換しながら自らが進むべき道を見つけしていく力が求められている。そのため、何か型にはまったようなことを学べばよいということではなく、選り好みせず、様々なことに取り組んでいこうとする意欲を高めることが大事であり、その土台になるのが家庭教育だと考えている。ただ、本会議においても、家庭教育を充実させようとすればするほど、親の負担が大きくなるという意見もあり、家庭教育というテーマは現状との板挟みに苦しむことも考えられる。さらには、家庭が抱える問題は、経済的なことやコミュニケーションに関わることなど多岐に及び、教育分野だけで解決できるものではない。そのため、教育以外の幅広い分野との連携が非常に重要で、それぞれの得意分野を生かすことが根本的な解決につながると思う。課題はいろいろと尽きないが、2年間の活動では、委員それぞれの立場からの意見が大変勉強になった。本当にありがとうございました。

**議長** 私からも2年間の感想を述べさせていただく。私が青森県に移り住んだのがおよそ15年前になるが、その当時と比べると子育て環境が大きく変わってきていると強く感じている。それぞれの家庭が抱える問題はかなり根深く、かつ多岐に及んでるが、実地調査で確認できたように、各地域で多様な家庭教育支援団体が個別の事情に寄り添いながら活動していることを改めて実感している。会議の中では、支援者の9割が女性であるとの指摘もあったが、その一方で「ファザーリングジャパン」や「父親ネットワーク北海道」のように男性の家事・育児参画への取組も進んできている。今回の答申は他県にも誇れるものになったと自負しているが、これで満足せず、県民とともに実践して、磨きをかけていくことが重要である。先日、「学校が合わなかったので、小学校の6年間プレーパークに通ってみました」という書籍について、大学院生と一緒に読み合う機会があった。その書籍の内容をざっくり言うと、不登校の子どもと一般的な親とは違う母親の育児記録で、決して深刻な内容ではない。子どもは、学校に通わないものの家にはこもらず、外に出て、プレーパークを含む様々な社会活動に参加する。それに対し母親は、地域の社会資源を巧みに使い分けて、子どもの育ちを支援していく。母親の対応はこれまであまり見られなかったものであり、今後は、そのような家庭もそれなりに出てくるのが考えられるので、支援する側としては、多様性への対応がまさに問われている。このことは、家庭教育や学校教育に限った話ではなく、議論は尽きないが、これからも様々な課題に向き合っていくことが重要である。拙い議長だったと思うが、委員の皆さんと2年間学び合えたことは大変貴重な機会となった。また、会議での意見を丁寧に汲み取って答申案をまとめ上げた事務局に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

**議長** 最後に事務局から今後のスケジュールについて説明していただきたい。

(事務局から説明)

### 3 閉会

(内容省略)